

The Japanese Association for Metastasis Research

NEWSLETTER Vol. 61

- 第32回 学術集会のご案内
第33回 学術集会のご案内
寄稿 伊東文生 功労会員
(聖マリアンナ医科大学)
溝上 敦 新理事
(金沢大学 泌尿器科)
早川 芳弘 新理事
(富山大学和漢医薬学総合研究所)
第28回 研究奨励賞募集案内
第2回 女性研究者がん転移研究グラント賞募集案内
会則/役員選任規程/役員名簿/変更届



日本がん転移学会

URL : <http://jamr.umin.ac.jp>

第32回日本がん転移学会学術集会/総会の案内

会 期 : 2023年7月20日(木)～21日(金)

会 場 : 仙台国際センター(仙台駅から地下鉄約5分)

テーマ : 転移を制してがんを克つ

※COVID-19パンデミックが収束したあとの初めての学会ということで、久しぶりの全員懇親会も予定しております。COVID-19の状況によって変更が生じた際には、大会ホームページでご案内させていただきます。

【プログラム概要】

●シンポジウム

1. 腹膜播種の制御に向けた新たな診断・治療アプローチ
(日本腹膜播種研究会とのジョイントシンポジウム)
2. 転移に対する外科的切除の適応と至適タイミング
3. 微小転移診断・術後再発予測のup to date
4. がん転移に克つためのバイオ医薬開発技術の最前線

●ワークショップ(口演)、ポスターセッション

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------|
| 1. 転移と微小環境 | 2. 転移の分子基盤 | 3. 転移の細胞特性 |
| 4. 転移とバイオマーカー | 5. 転移とがんゲノム医療 | 6. 転移の実験モデル |
| 7. 転移の外科治療 | 8. 転移の集学的治療 | 9. 転移とがん免疫 |
| 10. 転移と薬剤・放射線耐性 | 11. cluster 転移 | 12. 興味ある転移症例 |

【第32回学術集会/総会事務局】

会長 海野倫明(東北大学大学院 消化器外科学分野)
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
(Tel:022-717-7202 Fax:022-717-7209)

運営事務局:日本コンベンションサービス株式会社 東北支社
〒980-0824 仙台市青葉区支倉町4-34 丸金ビル6F
TEL 022-722-1311 FAX 022-722-1178
ホームページ <https://site2.convention.co.jp/jamr2023/>
E-mail: jamr2023@convention.co.jp

第33回日本がん転移学会学術集会・総会の案内

会 長 : 吉治仁志(奈良県立医科大学 第三内科)
会 期 : 2024年6月27日(木)～28日(金)
会 場 : 奈良春日野国際フォーラム(奈良公園内)
テーマ : 未定

寄稿 1：功労会員推薦のお礼

伊東 文生 功労会員（聖マリアンナ医科大学 消化器内科 特任教授）

小生の研究生活は札幌医科大学卒業後、同大の内科学第一講座でがん遺伝子についての研究で始まりました。国立がんセンター（当時）に国内留学し、がん遺伝子の変異などの異常を探索するかたわらで、転写開始部位およびプロモーター領域などの研究を主体に行っていました。がんセンターから札幌医科大学内科学第一講座に戻り、c-junというがん遺伝子について新しく研究をはじめました。プロモーター領域でAP-1に結合し活性化を起こす遺伝子産物でした。活性化c-junによって発現亢進が起こる遺伝子を探していたところ、マトリックスメタロプロテアーゼ（MMP）ファミリーに属するマトリライシン（MMP-7）が含まれていることが明らかになりました。消化器内科領域の主要な研究対象であった胃癌や大腸癌においてマトリライシン発現が頻度高く認められることが確認され、この研究を深く行っていくことになりました。この頃から自身の研究領域は転移研究を含んだものになっていきました。文部省（当時）のがん研究ではいくつかの研究機関が集まって成果を出す、いわゆる班研究が活発に行われていました。MMP研究を含む癌浸潤・転移研究は金沢大学医学部の清木元治先生を班長とする研究が行われており、ここに若手研究者として加えていただけることになりました。この後何年かの間、秋になると金沢に行き、癌浸潤・転移の研究の発表会に参加できました。日本国内では当時唯一の班組織であったと記憶しております。個々の研究者のレベルも高く、いわゆるワンイシューでおよそ一日半の日程で行われていた発表会は議論も含めきわめて有意義でありました。その後残念なことに文部省および文部科学省のがん研究助成金からは班研究のスタイルは少しずつ消えていきます。しかし当時のMMP研究のサイズ感は数か所の研究機関がまとまって議論するのが丁度良いものだったと思われます。学会や研究会では規模が大きすぎ、研究費の成果発表会では十分な議論が難しく、これらの中でちょうど良いサイズ感だったので班研究だったと思われます。班研究のように数か所の研究機関からなる規模は風通しもよく、議論も深まりやすいので、今後の展開を見通す意味でも非常に有意義でした。研究内容のサイズにもよりますが、現在でも班研究のようなスタイルは実質的に非常に有用だと思われる内容が多数あるのではないかと思います。特に若手研究者を育成するには非常に適したシステムだと思われ、国の研究費に限らず、班研究スタイルがなんらかの研究費で行われることは意義が深いと思っており、どこかで実現できないものかと考えている昨今です。末筆になりますが本学会がますます発展しますよう祈念申し上げます。

寄稿 2：プレゼンテーションスライドの作り方

溝上 敦 新理事（金沢大学 泌尿器科）

学会や研究会で発表する際、いかに視聴者に対して説得力を持って効率よくスライドを使用するかというのは、なかなか難しいものです。私自身スライドを用いながらプレゼンテーションするとき、自分が何を言おうとしているのか、どうしたら視聴者に話している内容を伝えることができるのか、これまでいろいろと試行錯誤してきました。すでにいろいろな先生がプレゼンテーションのやり方、極意を解説され、出版もされていますので、それらを参考にして勉強しても良いと思います。ここでは、私なりのプレゼンテーションのスライドの作り方をお話したいと思っています。もちろん、いろいろな先生が極意を話されたことと重複する内容が多いかもしれません。あくまで私流のやり方ですので、他の先生すべてに役立つとは思いませんが、少しでも参考になればと思います。

まず、私が気をつけていることの第一は、どのような人を対象に話をするのかを前もって確認することです。視聴者が一般市民なのか、専門分野の人なのか、臨床医なのか、基礎研究に詳しい人なのかなど、プレゼンテーションする内容が視聴者にマッチしているのかを考える必要があります。特に一般市民のかたに専門用語を用いるときは特に注意が必要です。また、特に視聴者が高齢者などの場合、難しい横文字（カタカナ）をスライドでも会話の中でも使用することは極力少なくする必要があります。これは診療において患者に説明するときもなるべく患者目線で話すことが重要なと同様です。視聴者に臨床医が多いときにあまり難しい基礎的な話をしても理解してくれず、眠気を誘ってしまうのも困りものです。もしよろしければ、YouTubeに私が一般市民に対してプレゼンテーションした動画がアップされています（Keyword: 溝上敦、前立腺癌、2016）ので、見ていただければと思います。

次に話しの流れですが、基本的には文章を書くときと同様になるべく起承転結となるようにスライドを並べ替えています。私は過去に基礎研究も行い、その後臨床を行ってきましたから、まずは基礎的なスライドを早い段階で使用して、その後臨床的にどう役立つのかという流れで展開することが比較的多いです。逆に臨床データを先に提示し、その理由を基礎的に解説するということもあります。ただどちらの方法でも、臨床データのみとか基礎データのみとかで話を終わらせてしまうことはしないように心がけています。一般市民に話をする場合でも基礎研究の内容はかみ砕いてわかりやすいように作り替えています。

また、スライド一枚になるべく多くの文字を書き込まないことです。以前先輩から、1枚のスライドには200字以内の文字数にしておかないと視聴者はついていけないと言われました。私自身が視聴者の場合、文字が多いと頭で読み考えることが多くなり、理解がついていかなくなることもしばしば経験します。正直なところ200文字でもまだ多いと思います。私が他人の講演を拝聴していてしばしば気になることは、やはり文字を詰め込みすぎていることや、文字が小さいスライドです。スライドに近くの視聴者であれば見えるスライドでも遠くに座っている視聴者がスライド内容を理解できないというのも困ります。せっかく私の講演を視聴してくれるために来てくれているのだから、遠くからでも分かるスライド作りを心がけたいと思っています。このため文字数を極力減らして大きな文字で、なるべくグラフやポンチ絵で解説することを心がけています。グラフの結果を見ればすぐに言いたいことがわかりますし、ポンチ絵も使う文字をなるべく最小限にしてすぐに理解できるように極力自分で一枚一枚スライドを作るように心がけています。

講演の途中で話題を変える時、私はなるべく息抜きとして全く関係のない写真を挿入するようにしています。写真を挿入すれば、そこで展開が変わるのだなと自分自身でも意識できますし、残りの講演時間配分も見積もることができます。この挿入する写真に関して、最近私はiPhoneで様々な写真を撮って、気に入ったものを使用しています。それがこうじて、iPhoneで風景、花などを撮るのが趣味になっています。学会等で遠方に行く際も、その地を歩いて、スライドになりそうな風景を探します。日本では特に飛行機からの富士山の景色が好きで、いろいろな角度からの富士山をスライドに使用しています。また地元が金沢市なので、地元にある兼六園の風景などを使用しています。息抜きの風景写真をところどころ挿入することで、難しい話題でも少しは和やかになればと思っています。



ただ、最近製薬メーカーなどが共催する講演会では、メーカーからの規制がかなり厳しく、他社製品の誹謗中傷をするな、製薬メーカーが提供するスライドには修正を加えるな、チャンピオンケースとなるような症例は提示するな、などといろいろと制限がかけられます。しかし、一方で製薬会社が提供してくれるスライドは文字が多く、詰め込みすぎの内容で、視聴者にはわかりにくいスライドが多いため、私自身は極力製薬会社提供のスライドを用いることなく、自分でわかりやすいスライドを作るように心がけています。たとえ、製薬会社から提供されるスライドを使用する場合でも、自分の最も言いたいことを説明できるスライドだけに絞り、一枚のスライドであまり多くは語らずに言いたいことは何かということをしっかりと考えて説明するように心がけています。

最後に全体のスライドが出来上がったら、何枚くらいのスライドになったかを確認します。私自身はそれほど早口ではありませんし、早口で話すとすぐにろれつが回らなくなったりとか、話している内容を何度も繰り返していたりとか、自分自身をコントロールできなくなるため、話すスピードは原則1分1枚のスライドとなるように全体の枚数を整えるようにしています。準備段階ではもちろん多めにスライドを作成していますが、最終段階ではさらに自分の言いたいスライドだけに絞って自分の話すスピードに合わせ、制限時間内に話せるよう枚数を減らします。

以上、私がプレゼンテーションに使用するスライド作りに際して注意していることを述べました。しかし、現実的には私もまだまだ未熟で、できれば将来的にはコンピュータをなるべく見ずに極力視聴者のほうを向いて話しができればと思っています。そのようなことができるようになるのはまだまだ先かもしれませんが、そのときはもう退職してあまりプレゼンテーションをする機会がきつとかなり減っていくのだらうと思うばかりです。もっと早くからそのような練習もしておけばよかったと反省しています。この内容が少しでも皆さまの参考になっていただければ幸いです。

寄稿3：「オンとオフ」

早川 芳弘 新理事（富山大学 和漢医薬学総合研究所 生体防御学領域）

がん転移学会のニューズレターへの寄稿の依頼を頂き、何を書こうかとパソコンに向かっていきます。締切も近づいてきて、過去の先生方の寄稿を学会ホームページから改めて拝見すると、皆さん研究のことや学会のことを中心に執筆されておりました。自分はといえば、学会と自分のことや転移研究については、以前に学会奨励賞を頂いた際にニューズレターに載せていただいた記事にほぼ書き尽くしてしまい、完全にネタ切れ（トホホ）。さて、困ったな…と思っていたところに、今号の寄稿と一緒に担当することになった金沢大学の溝上先生の原稿を拝見させて頂き、プレゼンテーションのことについてお書きになっているのを知りました。では自分もちょっと研究とは離れた内容で寄稿させてもらおうかと。確かに学会事務局の長谷川さんからは、ご依頼いただく際にエッセイ的なものでも良いとの連絡を頂いておりました。ですので、以降は私が個人的に大事にしている「オンとオフ」について、取り留めのない内容かもしれませんが寄稿させて頂きます。

さて、「オンとオフ」ですが、もちろん電源やスイッチのことでなく、仕事をオンとするならばそれ以外のことをオフと呼ぶ「オンとオフ」です。研究については仕事なんですが好きでやらせてもらっている部分が多々あるため、「オフ」なんではないか？と思うこともあります、とにかく私にとっては大学での仕事以外の「オフ」の時間の過ごし方を、「オン」の時間と同様に大事にしています、ということを書いてみようと思いました。そんな私の「オフ」の1番目は今や朝の日課になっており、もう20年近くになりますが、毎日毎朝ジョギングをすることを続けています。ほぼほぼ毎日、この20年ほどずっと続けています。日本全国、世界各国どこに行っても基本走ります（笑）。雨でも風でも、富山ですので雪でも、関係なく走ります。と言ってもタ

イムを上げるとか、速く走るためにやってるわけではなく、最初は0.1トンになりそうだった20年前の当時海外にいた時の体重を、このままではまずい！と思い、痩せようかと思い走り始めたのですが、それが今やほとんど病気の域に達しつつあり、中毒です（一部ご存じかと思いますが）。正直、最近はだんだん義務みたいになってきてますが、何も考えずに毎朝身体を動かす時間を作ることで、なんだか1日の時間も有意義に使えているような気がしています（気のせいかも知れませんが）。2番目は週末の銭湯です。銭湯といってもほぼサウナに入ってますが、最近若者で流行りの「ととのう」とか言うずっと前から、自分で勝手に整えていて、こちらもほぼ中毒の領域に入ってます。土日は何ものなければ2時間ぐらいい銭湯におり、灼熱と水風呂を延々と繰り返し、ポーッとサウナのテレビを見ながら頭を空っぽにしています（ここまで書いてきて、頭を空にすることばかりですね…）。学会出張など、国内で宿泊する際には大浴場があるところ、さらにはサウナがついていれば完璧で、そんな全国のビジネスホテルを探しては宿泊してマイビジネスホテルランキングを更新しています（知りたくもないでしょうが、ご興味あればこっそりお教えします）。ジョギングと風呂サウナ、私にとってこの2つのオフ活（と言う言葉があるのかはさておき）は日常の中のオフとして大事にしています。走れない日があったり、週末サウナが出来なかった週末などは、なんか調子が狂います（病気ですよ…）。

これらのroutine的な「オフ」に加えて、非日常的なオフ活として続けているのがラグビーです。とは言っても私も50歳目前になりまして、over40のクラブ（通称惑ラグビーと呼んでいます、40にして惑わずということで不惑ラグビーが正式ですが）でいまだに週末はプレーをしています。こんな歳ですごいね！とか言われますが、私なんかはまだまだ惑ラグビーの世界では若手で、所属する富山の富惑クラブでは最年長現役プレーヤーは御歳80を超えており、全国的に見れば90歳を超えてもプレーされている諸先輩方もいらっしゃる奥の深い？世界です。ちなみに年齢ごとにプレーする時の短パンの色が決まっています、40代が白、50代が紺、60代が赤、70代が黄、80代が紫、そして90代が金となっています（いるんです、全国には90代のプレーヤーの大先輩が！）60代以上と40代50代が試合をすることはなく、70代以上のプレーヤーにはタックルは行かないというような紳士協定的なものもありますが、基本痛いことは全部あります（笑）。また、ラグビーのゲームをするのはもちろんなんですが、相手チームとの交流でお互いに行ったり来たり、近県だけでなく遠方のチームとも交流するというのも楽しみの目的です。そんな惑ラグビーを始めたおかげでラグビー仲間が全国津々浦々に出来ました。私自身、若い頃はこんな歳までラグビーやってるとは思ってませんでした、地元富山のチームだけでなく、ご縁あって名古屋のチームにも所属したり、ここ数年は生まれ年が同じ同級生が集まるチーム（昭和48年生まれの集まったチーム48会と言います）などで色々な全国の仲間やチームとの交流を楽しませてもらっています。そんなラグビーに加えて、冬季の非日常として続けているのがスキーです。何を隠そう（隠れてないかも知れませんが）、私は半分真面目にスキーをするために富山におります。私の恩師で転移学会の初期からのメンバーでもある済木育夫先生に富山に呼び戻してもらった際にも、「スキーできるな、また」と思ったのは間違いありません。ここ数年は子供も奥さんも成長？して、スキーには付き合ってくれなくなりまして、15人という大人数でプレーするラグビーとは反対に、冬の週末はもっぱら一人ぼっちで富山のスキー場でひたすらに滑り続けております。ちょうど今年もスキーのシーズンをやる時期になりました。冬はどんよりした天気ばかりの北陸ですが、たまに奇跡のように天気がいい日もありまして、そんな折にホームゲレンデの立山山麓スキー場のてっぺんから見える景色は最高です。施設は古いスキー場ですが、家から1時間もかからずにスキー場にたどり着ける環境を有り難く楽しませてもらっています。

さて、やっぱり取り留めない内容になってしまいました、大変失礼しました。ただ、このニュースレターを手にとって、さらにこの寄稿を読んでいるがん転移学会の特に若手の先生や学生の皆さん。国内外のアクティブな研究者の先生方は、何かしら充実した「オフ」の過ごし方を持っていらっしゃる人が多いと思います。私が「オン」の研究がアクティブかはさておき、「オフ」が充実していることは理解していただけたかと思います（笑）。ぜひがん転移学会の若手研究者の皆さんも、「オン」の研究も「オフ」の時間も両方とも充実して、良い研究成果を本学会で発表頂ければと思います。重ねて、どうでもいい私の寄稿に最後までお付き合いいただきありがとうございました。

第28回(2024年度)日本がん転移学会研究奨励賞募集

本賞はすぐれた研究業績を発表した本学会会員若干名に対して、
選考の上、本学会学術集会において授与する

【募 集 期 間】

2023年 4月 1日～ 9月30日

- ・受賞候補業績の範囲は、原則として本学会において発表された業績として、
本会会員により応募されたものとする。
- ・受賞候補業績は、将来の発展が期待される若手研究者(応募年度の4月1日現在
43歳以下)によるものとする。
- ・研究奨励賞受賞者数は単年度2名程度を原則とする。
- ・研究奨励賞の賞金(奨励研究費)は1件20万円とする。



募集要項・申請書等については、事務局までメールでお問い合わせください。

◆事務局◆ E-mail: jamr2021-office@umin.ac.jp Tel/Fax 06-6945-0355

第2回(2024年度)日本がん転移学会女性研究者がん転移研究グラント賞募集

- ・本賞はがん転移研究の将来の担い手を目指す女性研究者のキャリアアップを
支援することを目的とする。
- ・本賞は日本がん転移学会田中紀子功労会員より寄贈され、賞状ならびに賞金
(研究費)をもってこれにあてる。

【募 集 期 間】

2023年 4月 1日～ 9月30日

- ・受賞候補実績は、応募時点で日本がん転移学会会員であり、助成対象期間中も会員であること。
- ・受賞候補者は、助成対象期間中にがん転移研究に従事する女性研究者であること。
- ・受賞候補は、本学会評議員、顧問あるいは名誉会員の推薦を必要とする。
- ・女性研究者がん転移研究グラント賞受賞者数は毎年1名程度を原則とする。
- ・女性研究者がん転移研究グラント賞の賞金は合計50万円までとする。

日本がん転移学会会則

第1章 会の名称

第1条 本会を「日本がん転移学会」 “The Japanese Association for Metastasis Research” と称する。

第2章 目的および事業

第2条 本会は、がん転移による死亡率を減少せしめるべく、基礎、臨床、開発（薬剤、機器等）研究を通じて実質的討議を行い、がん転移研究の発展、診断・治療の進歩普及に貢献する事を目的とする。

第3条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 学術集会を少なくとも年に1回開催
- (2) がん転移に関する研究発表、情報交換、資料の収集、教育及び研修
- (3) 本分野に関して海外研究者との連携
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 本会の事務局は、大阪市中央区大手前3丁目1番69号、大阪国際がんセンター・研究所内に置く。

第3章 会 員

第5条 会員は、本会の趣旨に賛同し、評議員、顧問あるいは名誉会員の推薦を受け、理事会の承認を得て入会した個人ならびに法人（法人格のない団体を含む）とする。

第6条 会員である法人の取扱いは次による。

1. 法人に所属する個人はその法人の承認を得れば本会の事業に参加できる。
2. 前項により参加する個人からは年会費を徴収しない。
3. 会員である法人は登録者3名迄と会計事務担当者1名（兼任も可）を決め事務局に届出なければならない。

第7条 会員は評議員会において別に定める会費を納入しなければならない。

第8条 引きつづき2年以上会費を滞納したものは評議員会の議により、その資格を喪失する。

第9条 顧問は理事会にて推薦、評議員会にて承認を受ける。また、本会に対して特に功労のあった者は、名誉会員・功労会員として理事会にて推薦、評議員会にて承認を受ける。顧問・名誉会員・功労会員は本会の発展のために適切な助言をする。顧問・名誉会員・功労会員は会費を要しない。

第4章 役員および役員会

第10条 本会に会長1名、副会長1名、若干名の理事ならびに評議員、監事2名、事務局幹事を置く。

＊事務局幹事は会長が任命し、会長及び理事会の事務を補佐する。

第11条 会長は本会を統括し、理事会・評議員会では議長となる。副会長は、次期会長がこれを務め、会長を補佐し会長に事故のある場合はその職務を代行する。会長・副会長の任期は1年とする。

第12条 理事は評議員会にて、評議員の中から選任される。任期は3年とし、任期終了後1年間は再選されない。理事は会長を補佐し日常の会務について決定し、執行する。理事会の構成は、会長・副会長・理事および前会長とする。理事会は構成員の2/3以上の出席（但し委任状を提出した人は出席とみなす）により成立し、議決は出席者の過半数をもって決する。

第13条 評議員は会員の中から選出される。評議員の任期は3年とし、再任は妨げない。評議員会は会の運営に関する重要事項を審議決定する。評議員会は評議員の1/2以上の出席（但し委任状を提出した人は出席とみなす）をもって成立し、議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第14条 監事は評議員の中から選出される。監事の任期は1年とし、再任は妨げない。監事は本会の会計および会務を監査し、理事会・評議員会にて報告する。

第15条 次期会長・理事・評議員・監事の選出は日本がん転移学会役員選任規程に基づく。

第5章 総会および学術集会

第16条 総会は毎年1回学術集会の時期に会長が招集し、総会の議長となって次の議事を行う。

1. 会務の報告
2. 会長が必要と認める事項

総会の議事は出席者の過半数によって決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

第17条 会長が必要と認めたときは評議員会の議を経て、臨時総会を随時開催することができる。臨時総会の議案は定期総会に準ずるものとする。

第18条 学術集会は毎年1回会長が主宰し、研究発表、意見交換を行う。

第19条 本会会則第2章第3条の4の規定に基づき各種の委員会を設けることができる。委員会の設置、その構成及び運営方法は、理事会において討議し、評議委員会にて承認する。また会の目的を達成するための具体的、実質的討議を行うため、研究推進会議(班)を設置することができる。その構成及び運営方法は理事会において討議し、評議委員会にて承認する。研究推進活動の経過については、学術集会で報告する。

第6章 会 計

第20条 本会の経費は会員が拠出する会費ならびに協賛金等をもってこれにあてる。

第21条 毎年度収支決算は会長が作成し、監事の監査を受け、評議員会の承認を得て、毎年総会において報告する。

第22条 会計年度は毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。

第7章 会則の変更

第23条 本会会則の変更は理事会、評議員会および総会において、各々出席構成員の2/3以上の承認を得なければならない。

付則

本会則は平成12年7月1日よりこれを実施する。本会則は平成14年6月8日一部改正した。本会則は平成18年9月3日一部改正した。本会則は平成29年3月25日大阪府立成人病センターの移転及び名称変更に伴い第2章4条を変更する。本会則は令和元年（2019年）年7月25日一部改正した。

日本がん転移学会役員選任規程

第1章 役員の選任

第1条 会則第15条により次期会長（副会長）・理事・評議員および監事は本規定に基づき選出される。なお、役員は65歳をもって定年とする。

第2章 次期会長（副会長）の選出方法

第2条 次期会長の選出に際しては、評議員全員に告示する。候補者は所定の様式で抱負を述べた資料を理事会に提出し、理事会はこれを討議し候補者1名を推薦する。

第3条 次期会長の選出は評議員会で行う。

第3章 理事の定数と選出方法

第4条 理事の定数は個人評議員より約6名（原則として基礎3名、臨床3名）、法人評議員より1名とする。

第5条 理事は会則第12条により評議員の中から選出される。

第6条 個人会員理事は評議員の選挙により選出される。候補者は所定の様式で抱負を述べた資料を評議員会に提出する。

第7条 法人会員理事は理事の選挙により選出される。

第4章 評議員の選出方法

第8条 評議員は会則第13条により会員の中から選出される。

第9条 評議員の選出は理事会で行う。

第10条 個人評議員は、一定の条件（細則に定める）を満たす者とする。

第11条 個人評議員の候補者は所定の様式による資料を本会事務局に届け出ること。

第12条 法人会員評議員は理事会で選出する。

第5章 監事の選出方法

第13条 監事は会則第14条により評議員の中から選出される。

第14条 監事の選出は理事会で行う。

付則 1. 理事選挙の施行は次期評議員が選出された（平成15年度）以降とする。

2. 本役員選任規程は平成14年6月8日よりこれを実施する。本役員選任規程は平成15年6月29日一部改正。

3. 本規程の変更は理事会および評議員会において、各々出席構成員の2/3以上の承認を得なければならない。

4. 役員の任期は、65歳になる年の12月末で終了する。

日本がん転移学会役員選任規程細則

1. 個人会員理事の選出方法

1) 投票は原則として郵送とする。

2) 評議員は基礎系候補・臨床系候補に各1票投票する。

2. 個人評議員の選出条件

1) 原則として3年以上本会会員であり、会費を完納していること。

2) 本会や関連学会、学術雑誌などですぐれた評価を受けていること。

3. 評議員の資格

1) 筆頭あるいは共著の発表を、3回の総会で少なくとも1回行うことを原則とする。

日本がん転移学会役員

会 長：	海野 倫明 (32回)			
副 会 長：	吉治 仁志			
前 会 長：	井上 正宏			
理 事：	竹内 裕也	早川 芳弘	樋田 京子	二口 充
	溝上 敦	山本 浩文	エーザイ(株)	
監 事：	藤原 義之	大鵬薬品工業(株)		
評 議 員：	足立 靖	有明 恭平	石井 秀始	泉 浩二
	板野 直樹	伊藤 和幸	稲田 全規	猪原 秀典
	上原 久典	大島 正伸	大塚 英郎	岡田 太
	沖 英次	尾崎 充彦	掛地 吉弘	加藤 靖正
	加藤 幸成	川田 学	神田 光郎	北川 透
	北川 雄光	北台 靖彦	北山 丈二	国安 弘基
	隈元 謙介	五井 孝憲	小泉 桂一	越川 直彦
	狛 雄一朗	堺 隆一	坂本 修一	坂本 毅治
	清水 史郎	下田 将之	園下 将大	高野 重紹
	瀧口 修司	滝野 隆久	竹田 和由	谷口 博昭
	土岐 祐一郎	中 紀文	永野 浩昭	西岡 安彦
	浜田 淳一	東 伸昭	福島 剛	藤田 直也
	藤原 俊義	星野 大輔	松尾 洋一	三森 功士
	望月 早月	八代 正和	安田 卓司	安本 和生
	柳川 天志	矢野 聖二	山口 英樹	山本 博幸
	山本 真義	由井 理洋	横崎 宏	横山 省三
	渡 公佑			

(アイウエオ順)

事務局幹事： 大植 雅之、土岐 祐一郎

評議員任期：2021年7月31日～2024年/第33回総会まで（第31-33回） 評議員年会費：10,000円

日本がん転移学会 名誉会員・功労会員

名誉会員：	愛甲 孝	入村 達郎	太田 哲生	高後 裕
	小林 博	今野 弘之	済木 育夫	佐藤 博
	清水 英次	清木 元治	曾根 三郎	谷口 俊一郎
	田原 榮一	夏越 祥次	新津 洋司郎	宮坂 昌之
	門田 守人	安井 弥	横田 淳	渡辺 寛
功労会員：	東 市郎	伊藤 壽記	伊東 文生	岡田 保典
	小野 真弓	垣添 忠生	神奈木 怜児	久保田 俊一郎
	桑野 信彦	小林 浩	佐治 重豊	清水 暁
	高橋 俊雄	竹之下 誠一	竜田 正晴	田中 紀子
	茶山 一彰	寺田 雅昭	中津川 重一	中森 正二
	西村 行生	宝来 威	細川 真澄男	松浦 成昭
	宮城 妙子	宮崎 香	向田 直史	武藤 徹一郎
	森 正樹	矢野 雅彦	矢守 隆夫	渡邊 昌彦

日本がん転移学会 物故役員

物故顧問：	菅野 晴夫	杉村 隆	明渡 均	
物故名誉会員：	佐藤 春郎	末舛 恵一	田中 健蔵	塚越 茂
	鶴尾 隆	螺良 英郎	中村 久也	磨伊 正義
	Isaiah J. Fidler			
物故功労会員：	阿部 薫	尾形 悦郎	北島 政樹	久保田 哲朗
	豊島 久真男	馬場 正三		

日本がん転移学会事務局 宛
Fax : 06-6945-0355

日本がん転移学会連絡用紙

日本がん転移学会会員の種々の変更・退会等の連絡はこの用紙をご利用ください。
会員番号(郵便物の宛名ラベルに印刷してある貴氏名の右下の数字)、並びにご氏名(フリガナ)を明記の上、
変更したい事項をご記入いただき、封書またはFax、E-mailにてご連絡ください。

年 月 日

住所等変更 ・ 退会 届

(上記、どちらかを○で囲んでください)

(フリガナ)		会員番号		
氏 名		生年月日	西暦	年 月 日
勤 務 先	勤務先名称(部所属も記入してください)			
	〒			
	Tel		Fax	
	E-mail			
自 宅	〒			
	Tel		Fax	
	E-mail			
	雑誌等送付先を○で囲んでください。 勤務先 ・ 自宅			
変更年月日 西暦 年 月 日 付で変更します				
退 会 届 西暦 年 月 日 付でもって退会します				
その他				

※個人情報について

会員への連絡、会誌等の発送等、学会活動の目的に限定して利用します。



WBC 優勝（観戦）で寝不足が続いた会員の方も多いのでは（私は「春眠暁を覚えず」状態です）。

今年の夏は仙台で美味しい牛タンが食べられるとワクワクしていますが、この数年は体重の増加が順調（？）で、このまま続くと・・・考えるのが怖い日々です。

仙台で皆様にお会いしても驚かないでください（丸々パンパンに成長しています）。



=====

[発行・編集]
日本がん転移学会事務局
Tel/Fax 06-6945-0355 (直通)
E-mail : jamr2021-office@umin.ac.jp
〒541-8567
大阪府中央区大手前3丁目1番69号
大阪国際がんセンター・研究所内

=====